

沖縄尚学高等学校における DPの実践

IBDP コーディネーター
ブースクリ 悟子

沖縄尚学高等学校におけるDPの実践

1. 沖縄尚学高等学校(沖尚)とは
2. 沖尚のIBDP導入(1)(2)
3. IBDP導入の6つの理由
4. 沖尚におけるIBDPの課題
5. IBDPでの学習コミュニティの構築

1. 沖縄尚学高等学校(沖尚)

- 1983年に旧沖縄高校から改名して受験校に
- 沖縄県那覇市の高台に位置
- 中高一貫私立校(中学 842 名、高校 1148 名)
- 高校はコース制で志望大学によりクラス編成
 - ①難関国公立(理系、文系) ②中堅国公立(理系、理系)
 - ③国際文化科学コース(定員25名程度) ④体育コース
- 学校訓「恐れず、侮らず、気負わず、やるべき事に取り組みます。」「暖かみ、厳しさ、知性を身に着け、感謝と奉仕の心を実践します。」
- * 11月19日発売の「週刊ダイヤモンド」が選ぶ全国名門128校の一つに選ばれました

2. 沖縄尚学高等学校のIBDP導入(1)

2013年

- ▶ 5月：一条校における日本語Dual IBDPの紹介で導入を検討
- ▶ 8月：東京での研修に管理者、コーディネータ、教科担当者が参加
- ▶ 9月：候補校申請書提出

2014年

- ▶ 3月候補校認定
- ▶ 12月コンサル訪問を経て認定校申請

2. 沖縄尚学高等学校のIBDP導入(2)

2015年

- ▶ 2月: 確認訪問を経て認定校へ
- ▶ 4月: 国際文化科学コースでIBDP一期生の授業開始
- ▶ 5月: アミックス国際学園と県の委託事業を受けIBの
TOKとCASについて共同研究
- ▶ 12月: **In School Workshop**でIBスタッフ全員がTOK
の研修を受講

2016年

- ▶ 11月: 第1回目のIB外部試験

3. IBDP導入を決定した理由

- ▶ ① IBの使命とIBの学習者像に共感
- ▶ ② グローバルスタンダードの教育提供への参加
- ▶ ③ 日本語デュアルのプログラムへの関心
- ▶ ④ 大学受験の多様化に対応
- ▶ ⑤ 沖尚の国際文化科学コースの授業内容とIBの授業が一部共通し導入が容易
- ▶ ⑥ CAS活動がしやすい環境

①IB教育と沖尚教育の共通点

- ▶ 探究する人
- ▶ 知識のある人
- ▶ 考える人
- ▶ コミュニケーションができる人
- ▶ 信念を持つ人
- ▶ 心を開く人
- ▶ 思いやりのある人
- ▶ 挑戦する人
- ▶ バランスのとれた人
- ▶ 振り返りができる人

IBの学習者像

- ▶ 強くて優しい**文武両道**のグローバル教養人
- ▶ 教養のある人
- ▶ 倫理感のある人
- ▶ 文化力のある人→CAS
- ▶ **コミュニケーション力のある人**

沖尚が育成する学習者

②グローバル基準のIBDP

- ▶ IBは、全世界で同内容レベルの成果物と受験を要求しているため、評価規準が明確
 - ▶ →教師は内容を十分に把握する必要がある
- ▶ 世界規準を保つための研修やサポートが充実
 - ▶ →質問があれば**IB Answer**利用で回答
- ▶ 日本国内だけではなく、海外大学への書類提出の際にもIBの評価が認識
 - ▶ →大学によってはIBでとった単位を大学で単位認定
- ▶ IBとの連絡は全て英語:コーディネータは英語力が必須
 - ▶ →世界中のIB教育者とコミュニケーション

③日本語デュアルIBDP

- ▶ ① 生徒は、母国語を基盤に深く学習できる
- ▶ ② 教師は、日本語で授業ができる。つまり、教員確保が容易である。但し、教科によっては、日本語での教材が充実していないので英語で書かれている教材を研究する必要がある。また、認定校申請のための授業計画書も英語で書かなくてはならない。
 - * IBDPと日本の高校教育課程との整合性のために文部科学省と密に連絡をとりながら教育課程を作っていく必要性がある。

④大学出願への道

▶ 国内大学のIB入試制度が増加

まだAO入試の一部の存在であるが、IBスコア発表後に志願できる大学も出てきている。多くは、見込点で出願のため本試験で合格できなかった場合は不合格

海外大学のIB受験状況

多くの海外大学でIBのスコアを基に入学許可を出す。大学によっては大学の単位として認定する

* 米国大学では、さらにTOEFLなどの外部英語試験受験も必要となる

⑤国際文化科学コースでのIBDP導入

IBDP 25名定員

3年生:23名(内IB生4名)

2年生:10名(全員IB生)

1年生:23名(全員IB生)

日本国内大学と海外大学の進学を目指す

- ▶ TOEFLや英語での心理学、数学の演習授業があった
- IB教科英語での授業
- ▶ 英語で卒業論文を書かせていた
- IB課題論文
英語スピーチやディベートが盛ん
- IB CAS

⑥CAS導入が容易な環境

全校生徒が空手の黒帯取得

年に2回のボランティア活動

4. 沖尚での日本語デュアルIBDPの課題

- ①日本語での授業を増やすべきか減らすべきか
現在は、英語B, Math, Visual Artsを英語で提供
- ②学校の年間行事をどう変えていくか
- ③大学受験指導をどう行うべきか
本年度はAO入試で受験、またはIB本試験の結果を確認してからの受験
- ④設備充実に向けての投資をどうすべきか
- ⑤IB World校との交流をどのように行うべきか

IBDPでの学習コミュニティの構築(1)

①Group4における共働作業:

化学受講生徒と生物受講生が協働して実験、分析、発表を行う。本校では河川の汚染調査や水道水のペーハー分析で協働実験を行い9月のオープンキャンパスで発表を行った。

→役割と責任を自覚し自発的に活動する姿勢が育った

IBDPでの学習コミュニティの構築(2)

②TOKにおけるプレゼンテーション:

グループ発表の事前準備で、今年話題になった、ある少年凶悪犯罪者が出所した後に本を書いたことに対して様々な視点から熱のある議論かわされた。

→多角的視野で物事を捉える力と相手の意見を尊重するという姿勢が育まれた

IBDPでの学習コミュニティの構築(3)

③CAS活動

個人で行う様々な活動以外にCAS活動では、グループで行動することも多々ある。そのような活動の場では、率先して行動するリーダーシップをとることを目標として行動している。生徒は、マラソン大会、高齢者ホーム訪問、募金活動を通して率先力を磨いた。